

町田市バイオエネルギーセンター

- ・視察者 安藤和俊、斎藤雅男、中島慎一郎、堀越博文
- ・視察場所 町田市バイオエネルギーセンター
- ・視察日時 令和8年2月16日(月)13時30分から15時30分
- ・視察項目 町田市バイオエネルギーセンターについて
 - ・ごみ焼却施設と付帯設備について
 - ・ごみ処理と熱回収・資源化の流れについて
- ・担当者 株式会社タクマ 運営推進1部、プラント1部
 - 環境本部運営推進1部1課 副主幹 青木 隆
 - 環境本部プラント1部 部長 田邊 靖
 - 環境本部プラント1部1課 主幹 齋藤 圭介
 - 環境本部プラント1部2課 課長 高橋 和弘
 - 環境本部プラント1部2課 清野 哲也

・視察目的

本市では現在、小川衛生組合管内町村と広域でごみ処理施設建設に向けて協議を始めるところである。どのような規模の、どのような施設が望まれるか、ごみを有効活用している先進的な取組を実際に見学し、本市の施設建設の参考にしたいとするものである。

・要旨

町田市では、地域環境を守るために「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋め立てない」を市の基本理念とし、生ごみの減量の取組として、生ごみ処理機やたい肥化容器を活用した家庭での自家処理を勧めている。それでも出てしまった生ごみを資源化するために、バイオガス化施設を導入した。バイオガスとは、微生物が生ごみなどを発酵させることにより発生するガスのことである。ガスには「メタン」という燃えやすい気体が含まれており、発電や熱の供給などエネルギーとして利用することができる。ごみを有効に利用して温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を減らすことが期待される。

町田市バイオエネルギーセンターは、大きく4つの施設に分かれている。

1. 管理棟 市民のコミュニケーションを生み、環境や未来について考える施設の起点となるゾーンである。市民の用途や目的に応じて利用できる貸し会議室があり、活発な市民活動を支援している。
2. 不燃・粗大ごみ処理施設 燃やせないごみと粗大ごみに含まれる資源を手選別や機械により選別し、資源化している。

3. 熱回収施設 ごみを焼却処理し、減量化・無害化する。焼却時に発生する排ガスは、万全な大気汚染防止対策をし、大気に放出する。また、焼却時に発生した熱エネルギーを利用して発電を行っている。

4. バイオガス化施設 燃やせるごみの中から生ごみなどの有機性のごみを選別し、微生物の働きにより発酵処理し、バイオガスを発生させる。発生したバイオガスを利用し、発電を行っている。

バイオガス施設導入の経緯としては、2006年に「ごみゼロ市民会議」を立ち上げ、住民と協働でごみ処理のあり方について話し合い、および実証実験を行い、生ごみ資源化とバイオガス化施設に関する提言が出された。その後立ち上げた「町田市廃棄物減量等推進審議会」からの答申を受けまとめた「町田市一般廃棄物資源化基本計画」で、市としてバイオガス化施設導入を位置付けた。この計画では、生ごみを生ごみ処理機で3000トンたい肥化し、たい肥化できない19000トンをバイオガス化することとしている。

・視察結果、所感

町田市バイオエネルギーセンターを視察し、ごみ処理を単なる処分ではなく資源循環として捉える先進的な姿勢に強い示唆を受けた。特に、生ごみをバイオガス化し発電等に活用する仕組みは、環境負荷の低減とエネルギー創出を両立させるものであり、今後のごみ処理施設のあり方として重要な視点であると感じた。また、焼却施設や資源化施設と一体的に整備されている点により、効率的かつ安定的な処理体制が構築されていることも印象的であった。

加えて、市民参加を基盤として導入に至った経緯は特筆すべきであり、ごみゼロ市民会議などを通じた合意形成の積み重ねが、持続可能な施策推進の鍵であることを再認識した。単に高度な施設を整備するだけでなく、市民理解と協働を前提とした計画づくりが不可欠である。

本市においても、今後の広域ごみ処理施設の検討にあたっては、処理能力やコストのみならず、資源化やエネルギー回収の観点を積極的に取り入れる必要がある。さらに、市民への丁寧な説明と参加機会の確保を通じ、地域に根ざした持続可能なごみ処理体制の構築を目指すべきである。今回の視察で得た知見を、今後の施策形成に着実に生かしていきたい。